

2026 年 1 月 度 中部品質工学会 議事録

1. 開催日時2026/1/17 (土) 10:00～16:00
2. 開催場所中部品質管理協会
3. 会員参加者<敬称略> S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	書	水田	S
山口(展)	S	黒田	S	鈴木	L	池田	S	山口(直)	S	前田	欠	木村	L	藤井	S
北村専務	S														
河合	休	杉浦	休	福田	休										

4

4. 研究会内容

1）「輪講 タグチロバスト設計 3章」（池田さん）

シミュレーション+ロバスト設計を用いて設計パラメータを決定する6件の事例について輪講を行った。関連し、現状での設計開発におけるシミュレーションの活用状況を議論した。

2）「カテゴリーデータの整理方法」（牧野さん）

昨年の研究発表大会で、データベースの作り方による違いについて報告を行った。そこで、椿先生より、風向きをカテゴリーデータに変更するのではなく、三角関数で計算してみてもとのアドバイスをいただいた。風向きは、東を“0度”とし、時計回りに角度を設定し、角度を三角関数に変更し計算し、カテゴリーデータとの比較を実施した結果を報告した。結果は、あまり変わらなかった。（少しMT法のMD値が大きい）いただいたアドバイスで、予稿集を作成して行く。

3）「講演会 インド企業のタグチメソッド展開状況」（田口伸先生）

2021年からインドTVS モーター社へのタグチメソッド導入を指導している。
主要製品 二輪車（インド3位、世界4位）、三輪トラック
導入ステップ
①社内推進体制構築 community of practice
②実践ありきの導入： 選択テーマの質を重視
③大規模導入による社内文化の構築
④社内タグチシンポジウム、事例TOP発表会の開催
導入体制の特徴
①シックスシグマ、DFSSを基にした社内体制。 テーマ選択教育
②グリーン・ブラック・マスターブラックベルトの資格設定
③プロジェクト（テーマ）評価のやり方
パラメータ設計：テーマの質、計測特性（基本機能か、動特性・静特性）、
ノイズを取っているか？、制御因子（数と質）、結果（利得）、総合点
MT： 目的、正常群の定義、特徴量、結果（判別できているか？）
活動の振り返り
①完了20テーマで 4.4億円/年の効果。
②トップダウン、完了サイクルが速い、時間と予算を掛ける、
完了サイクルが早い理由、シミュレーションの活用（80%）
担当者全員がsoftwareに強い。実機への適用も8か月で完了する。
③認定制度へのこだわり、技術者自身でIOT体制構築ができる。 優秀な人材を登用、
政治家・教育機関との連携、
④初期は火消テーマ→ロバスト性の最適化に代わって来た。
ノイズを取り入れて最適化するパラダイムシフトができつつある。
⑤機能性評価を速く、安く、うまくやる 計測技術を開発することが技術開発である。
⑥バグだし、取った因子の中では不具合ゼロ
⑦テンプレート形式で 計画+進捗管理

4）「事務局連絡」

①会計報告プレ 今期は計画通り活動を行い、予算執行はほぼ計画通りで過不足を生じず、問題なし。
②講演会招聘は来期に検討する。
③研究会活動基盤強化のために新規会員の勧誘を考える。
④26年度主要対外活動 関西合同研究会5月、品質工学シンポジウム10月、業務改善事例発表会 10月
関西研究会 新会長井上さんに交代